



# 100年以上続く神戸の「毎日登山」



かつて再度山にあった「善助茶屋」の写真。記帳簿に挟まれていました。

「大正時代の記帳簿には、茶屋のスケッチや六甲山のルート図なども描かれています」と吉野さん。



3号銅鐸。舌にはひもが残っています。

2015(平成27)年、南あわじ市松帆地区の田んぼから採取した砂の処理中に見つかった松帆銅鐸7点が今春、国重要文化財に指定されました。銅鐸はそれぞれ内部につるす「舌」を伴っていました。また、全国で初めてひも付きの舌とひも跡が残る銅鐸が見つかったことで、音を鳴らすためという用途が確実となりました。付着した植物片の科学分析結果から埋納時期は2100年～2300年前と推定されます。9月23日(水)～24日(木)まで「南あわじ市滝川記念美術館玉青館」の特別展で公開中で、5日(土)には講演会も開催します。(南あわじ市滝川記念美術館玉青館 的崎薫さん)

淡路島日本遺産認定10周年特別展  
「国指定重要文化財 松帆銅鐸と地域の宝」……

- 9月23日(水)～24日(木)まで9時～17時※月曜(祝休日の場合は翌平日)休館
- 南あわじ市滝川記念美術館玉青館(南あわじ市松帆西路1137-1)
- 一般500円、高校・大学生300円、小中学生150円
- 0799-36-2314 0799-36-5408

## 全国初や新発見も 松帆銅鐸が国指定重要文化財に

講演会の申し込みはこちら



神戸には、健康のために毎朝六甲山系に登る「毎日登山」という独自の文化があります。明治時代、神戸に移住した外国人たちが毎朝再度山に登るようになったのが始まりで、山腹の茶屋に置かれた記帳簿にサインしてから下山しました。やがて日本人の間にも広がり、摩耶山や高取山でも行われるように。大正時代には愛好家によって150以上の登山会が結成されました。近年は会員の高齢化が進み参加者は減りましたが、須磨区と垂水区にまたがる旗振山や、六甲山系を離れ西区の雌岡山にまで範囲を広げ、11の山筋で18の登山会、約1,500人が毎日登山を続けています。街のすぐそばに低山がある神戸ならではの文化を、これからも大切にしていきたいです。(兵庫県山岳連盟副理事長 吉野宏さん)

神戸登山研修所 078-940-1850 078-940-1851

朝のきれいな空気を吸いながら歩くのは最高です

神戸ツキワ登山会会長 卜部隆司さん

1928(昭和3)年に結成され、神戸市長田区と須磨区にまたがる高取山で活動しています。約30年前には350人ほど会員がおり、毎朝片道40分かけて山に登り、山頂付近の月見茶屋に設置された記帳簿にサインしラジオ体操を行ってから出勤するのが主流でした。月見茶屋は3年前、店主が高齢のため一度閉店しましたが、登山会で新しい店主を探し、今年3月に再開しています。現在会員は約100人。ほぼ70代以上のため、若い世代にも入ってもらえたら。朝のきれいな空気を吸いながら山道を歩くのは最高ですよ。



高取山の山頂付近の広場で行われているラジオ体操。

## 大学生が子どもたちの居場所づくり

詳しくはこちら



1 100円以下の手頃なお菓子が並ぶ店内。壁の飾りも学生の手作りです。2 フリースペースでは流行のシール帳を持参する小学生も。

学生主体のNPO法人ブレーンヒューマニティーは、西宮市を拠点に子どもや若者の支援活動に取り組んでいます。事業の一つが、子どもたちに居場所を提供する「駄菓子屋本舗やなや」の運営です。大学生のボランティアが交代で店番を務めています。店の脇にあるフリースペースでは宿題をしたりゲームをしたりすることもできます。近所の小学生を中心に、週に何度も来てくれる子も増えてきましたが、昨秋オープンしたばかりなので地域の人にもっと知ってもらい、子どもたちが気軽に立ち寄り安心して過ごせる場所として定着させたいです。(駄菓子屋本舗やなや店長 早川小春さん)

- 駄菓子屋本舗やなや
- 西宮市寿町5-16カミヤビル夙川1階
- 月曜～金曜15時～18時(夏休み期間は変動あり)
- NPO法人ブレーンヒューマニティー
- 0798-63-4442 0798-63-5551